

航空輸送の安全にかかわる情報の報告（平成 28 年度）（要約版）

1. 航空事故・重大インシデントの発生の概況

平成 28 年度において本邦航空運送事業者の運航に伴い発生した航空事故及び重大インシデントは、以下のとおり。

○ 航空事故（3 件）

- ・平成 28 年 8 月 8 日、朝日航洋機（川崎式 BK117C-2 型）は、神奈川県秦野市内場外離着陸場に着陸した際に強めの接地となり、機体後部のテールブームが折損した。
- ・平成 28 年 11 月 10 日、日本航空機（ボーイング式 767-300 型）は、鹿児島空港を離陸し、上昇中、機体が動揺し、客室乗務員 1 名が負傷（骨盤（仙骨）骨折）した。
- ・平成 29 年 3 月 24 日、せとうち SEAPLANES 機（クレスト式 Kodiak100 型）は、大分県別府市沖において、離水しようとしたが、波の影響で中止し、桟橋へ引き返した。到着後の機体点検において、フロートと胴体を結合する支柱の折損及び胴体の損傷等が発見された。

○ 重大インシデント（5 件）

- ・平成 28 年 4 月 17 日、アイベックスエアラインズ機（ボンバルディア式 CL-600-2C10 型）は、目的地の悪天候のため福岡空港へ引き返し中、抽気系統に不具合が発生し航空機内の気圧が低下したため、航空交通管制上の優先権を要請し、同空港に着陸した。
- ・平成 28 年 5 月 27 日、全日本空輸機（ボーイング式 737-800 型）は、上昇中、航空機内の気圧が低下したため引き返し、東京国際空港に着陸した。
- ・平成 28 年 7 月 9 日、ジェットスター・ジャパン機（エアバス式 A320-232 型）は、飛行中、機長席及び副操縦士席の速度計の指示が一時的に不安定になったが、その後回復したため飛行を継続し、成田国際空港に着陸した。
- ・平成 28 年 12 月 22 日、ピーチ・アビエーション機（エアバス式 A320-214 型）は、東京国際空港に着陸する際、管制官から指示された滑走路（C 滑走路）ではなく、閉鎖中の滑走路（D 滑走路）に着陸を試みた。その後当該機は、着陸復行し、C 滑走路に着陸した。

- ・平成 29 年 1 月 19 日、ANA ウイングス機（ボンバルディア式 DHC-8-402 型）は、新千歳空港 B 滑走路へ着陸し、同滑走路を走行した後、滑走路端を超えて、滑走路北側の草地に入って停止した。

2. 安全上のトラブル等の発生概況

平成 28 年度においては、航空事故が 3 件、重大インシデントが 5 件及び安全上のトラブルが 990 件の合計 998 件が発生しています※。

※航空運送事業者から安全上のトラブル等の報告が 1,041 件ありましたが、同一事象に関して複数報告された事案については、ここでは 1 件として計上しています。

表：安全上のトラブルの内容別分類件数^{注1)}

機材 不具合	ヒューマンエラー						回避操作		発動機の 異物吸引に よる損傷	部品脱落	危険物の 誤輸送等 ^{注4)}	その他
	運航	客室	整備	地上作業	製造	その他	TCAS RA ^{注2)}	GPWS ^{注3)}				
370	84	7	119	112	8	1	166	39	9	6	46	23
	331						205					

注 1) 分類別の件数は、今後の要因分析の進捗により変更されることがあります。

注 2) 航空機衝突防止装置の回避指示に基づく回避操作を表します。

注 3) 対地接近警報装置の指示に基づく回避操作を表します。

注 4) 危険物の漏洩を含みます。

3. 安全上のトラブルの評価・分析と今後の対策

第 21 回航空安全情報分析委員会において、平成 28 年度の安全上のトラブル等について審議した結果、それぞれの事案について、関係者により必要な対応がとられており、引き続き適切にフォローアップを行っていくべきことが確認されました。

また、引き続き、安全上のトラブル等の航空安全情報の分析に基づき、機材不具合への対応、ヒューマンエラー防止への取組み、TCAS RA や GPWS による回避操作に係る情報共有を進め、各事案への対応を適確に行うとともに、安全情報の一層の活用により、個々の航空運送事業者の特徴に応じた監査を実施するなど、更なる輸送の安全確保に向けた取組みを進めることが必要であるとの評価を受けています。